

新制富山大学の 発足をめぐって

富山大学人文科学系（人文学）

思想・歴史文化領域 准教授

入江幸二

2022/07/02 人文学部同窓会総会



- (1) 戦前の旧制高校・専門学校①
- (2) 戦前の旧制高校・専門学校②
- (3) 戦後：新制大学にむけて
- (4) 「呉越同舟」ーキャンパスをめぐる諸問題ー
- (5) その後の富山大学
- (6) おわりに

（１）戦前の旧制高校・専門学校①

○師範学校（1873～1949年）

明治 6(1873)年：新川県小学校教員講習所（北新町）

明治 8(1875)年：新川県師範学校

明治 9(1876)年：石川県師範学校（12月：女子部を併置）

明治10(1877)年：丸の内に移転

明治16(1883)年：富山県富山師範学校（3年後、富山県尋常師範学校と改称）

明治31(1898)年：富山県師範学校

明治38(1905)年：男子部が富山市西田地方に移転（現 南部中学校）

大正 6(1917)年：女子師範学校が独立（堀川村）

（女子高等学校併置＝現 富山いずみ高校）

昭和18(1943)年：官立富山師範学校

○青年師範学校（1925～1949年）

大正14(1925)年：県立実業補習学校教員養成所が、師範学校に併置される（7年後廃止）

昭和11(1936)年：富山県立青年学校教員養成所として発足（2年制）

昭和19(1944)年：官立に移管、富山青年師範学校に昇格（本科3年制）

昭和21(1946)年：中新川郡雄山町（現立山町）に移転（翌年女子部を開設）

（※跡地は分教場として1951年8月まで使用、県立雄山高等学校に引き継がれる）

○薬学校（1883～1949年）

明治11(1878)年：富山医学所に薬舗学の一課が設けられる

明治26(1893)年：共立富山薬学校（富山市梅沢町）

明治30(1897)年：富山市立富山薬学校

明治42(1909)年：富山県立薬学専門学校（総曲輪）

（官立以外では全国初の薬学専門学校）

大正 9(1920)年：官立に移管（上新川郡奥田村）

（富山初の官立学校）

（２）戦前の旧制高校・専門学校②

○富山高等学校（1923～1949年）

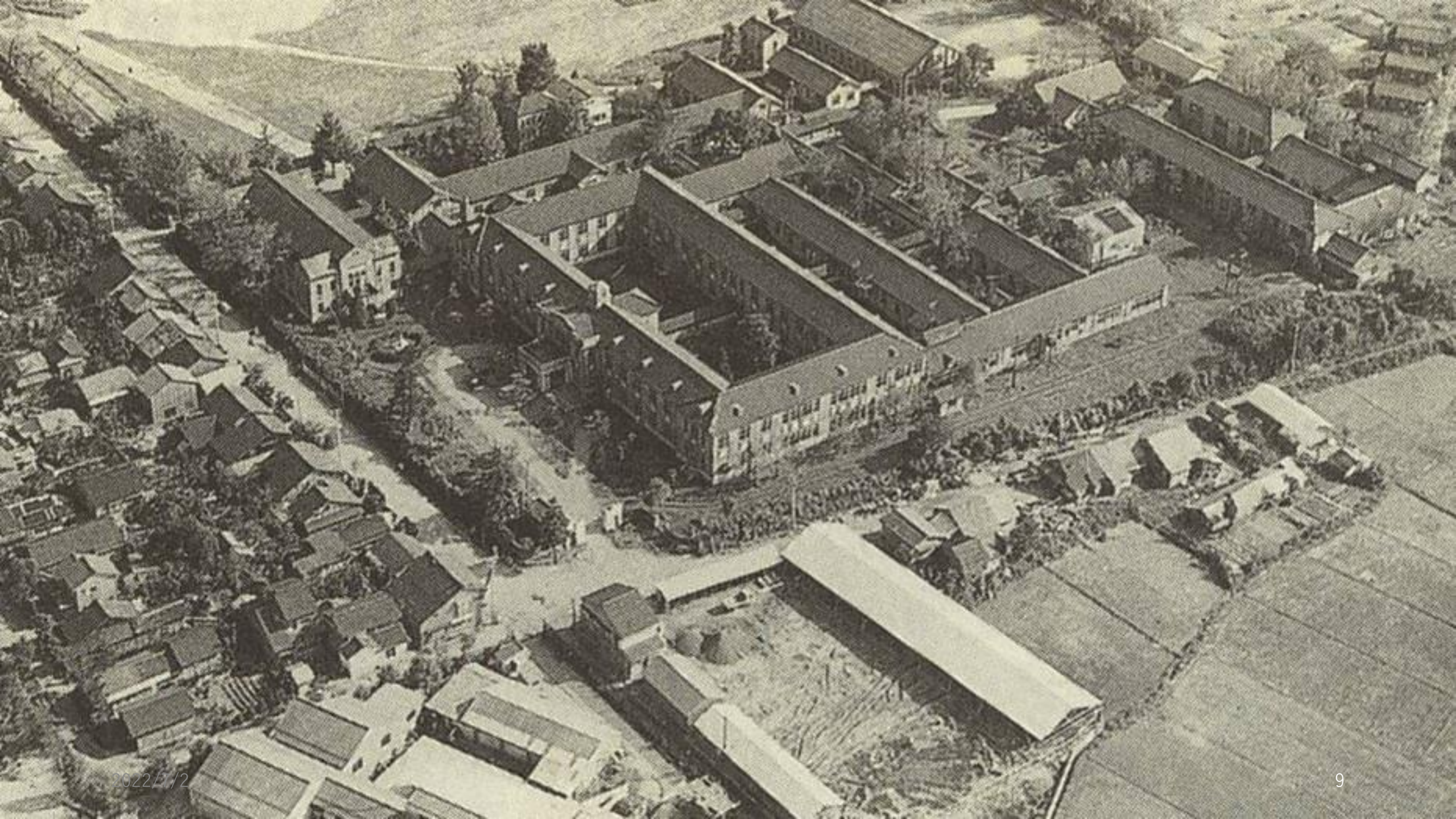
大正12(1923)年：県立として開校。中高一貫の7年制
（尋常科4年＋高等科3年）

- ・ 廻船業者の馬場はるが計150万円を寄付し、**蓮町**で開校
- ・ 校長として、元学習院教授の南日恒太郎を招く
- ・ ヘルン文庫 …… ラフカディオ・ハーンの蔵書群。馬場はるが
資金提供

昭和 2(1927)年：職員相互の懇親を目的として、眞率会を組織

昭和18(1943)年：官立の3年制高校に転換

理科の定員を80人から160人に倍増





「富山大学学」史跡等見学ツアー
(蓮町公園)

2022/7/2

○高岡高等商業専門学校（1924～1944年）

※高岡市：鑄物生産などが盛んな都市。実業界の中核となる人材の育成が求められていた

大正13（1924）年：高岡高等商業学校の設立

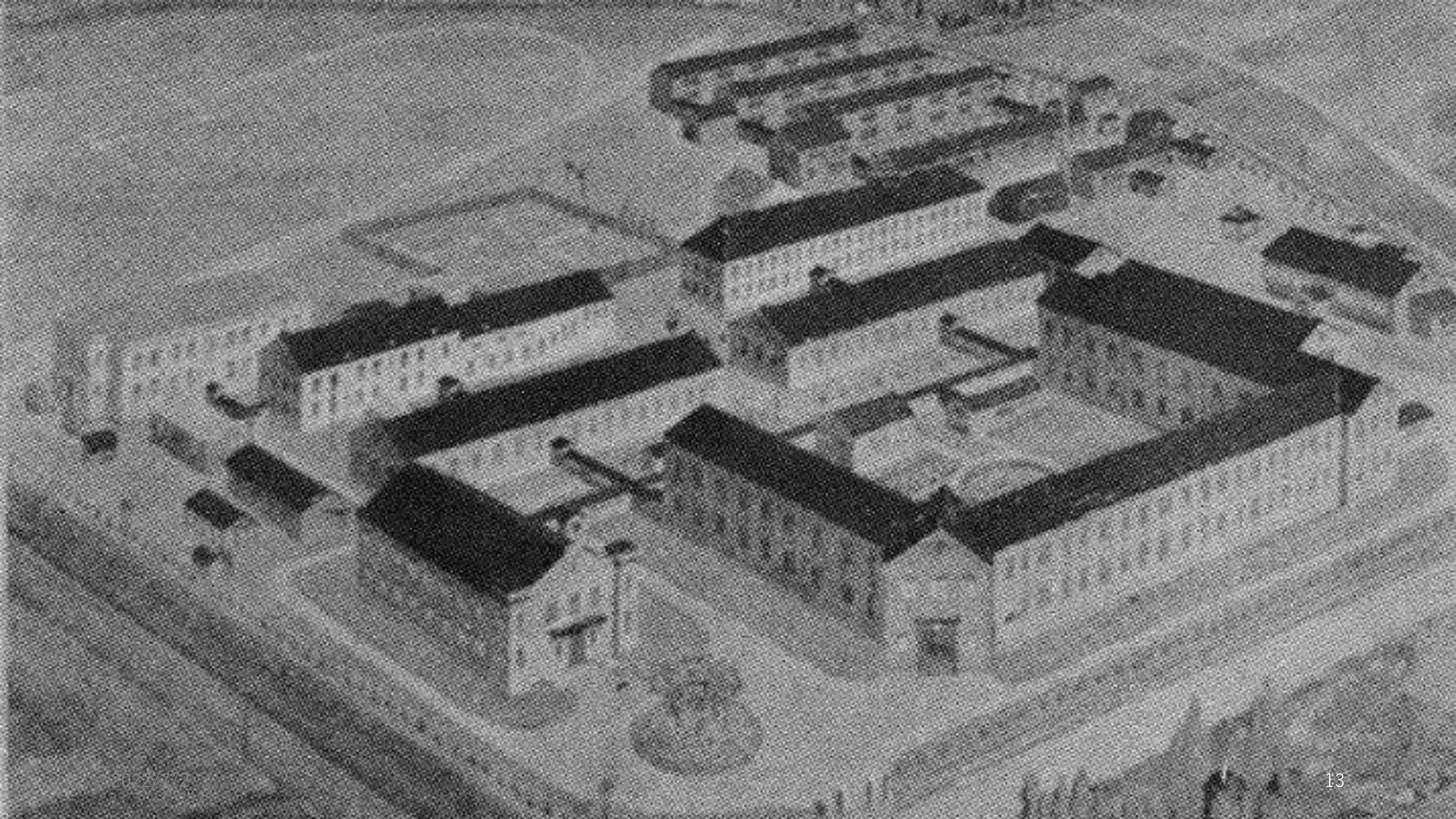
- ・ 当時の文部次官 南弘 は高岡市の人で、学校設置に尽力
- ・ 経費81万円のうち、県費と、地元・実業界・前田侯爵家からの寄付で32万円を調達
- ・ ヴィーザー文庫 …… 経済学者F・フォン・ヴィーザーの蔵書群

○高岡工業専門学校（1944～1949年）

豊富な電力を背景とした日本海側最大の工業県 & 戦争の激化
→ 高商を工専へ転換する方針が国より打ち出される

昭和19(1944)年：工業専門学校へ転換

※高岡高商は「高岡経済専門学校」となり、工専に並置（のち廃止）



「富山大学学」
史跡等見学ツアー
(高岡文化ホール)



（３）戦後：新制大学にむけて

○昭和22（1947）年

2月19日：高岡工専が、大学昇格期成同盟会学校会を発足

：5官立学校（富山師範学校・富山青年師範学校・富山薬学
専門学校・富山高校・高岡工業専門学校）で大学への昇格
が話題となり始める

10月12日：東京の富山県人会、総合大学の設置に賛意

12月 7日：県の主導で、**大学設置期成同盟会**の設立

○昭和23（1948）年

- 1月：政経文学部（定員1000）、理学部（320）、教育学部（1200）、薬学部（400）、工学部（600）、農学部（480）の6学部からなる総合大学案
- 4月：富山社会大学・富山教育大学・富山薬科大学・高岡工業大学の4単科大学からなる連合大学案
- 5月：“地域ごとに合併して一大学とする”という国の指針（「国立新制大学切替措置要項案」）にしたがい、文理学部・教育学部・薬学部・工学部の総合大学案

○昭和23（1948）年

9月：「大学設置認可申請書」を文部省に提出

11月：大学設置委員会の来富（6～10日）

- ・ 上原専禄（委員長・東京商科大学）
- ・ 山田良之助（東京工業大学）
- ・ 竹内貞義（大妻女子専門学校）
- ・ 神崎驥一（関西大学）
- ・ 小池隆一（慶応義塾大学）
- ・ 篠原亀之助（文部省）



昭和24(1949)年5月：新制富山大学の設置

富山大學設置に関する調書

(其の一)

○一般教養課程

① 一部は文科系學生
 ② 外國語英獨のうち一を必修とする
 ③ 二部は數學及び物理學を必修とする。

科學											科學
金 屬 工 學 科											學 科 目 又 は 講 座
合 計	育 體	外 座 講	座 講 門 專								一 般 教 養 科 目
	實 講	○ 卒 業 論	同 學 外 實 習 第 二 部	金 屬 工 學 第 一 講 座 第 二 部	機 械 工 學 第 一 講 座 第 二 部	機 械 工 學 第 二 講 座 第 一 部	機 械 工 學 第 二 講 座 第 二 部	機 械 工 學 第 二 講 座 第 三 部	機 械 工 學 第 二 講 座 第 四 部	機 械 工 學 第 二 講 座 第 五 部	機 械 工 學 第 二 講 座 第 六 部
五二	一一										五〇
三五	一一		四	二	二	五	五				六
四五			一	四	二	三	三	三	四	三	
一八一五〇	九	九	一			六					五六
	二二	九	一一	四	四	二	三	二	三	二	五
											各學部共通 ○印は必修 科目とする

22

[illegible]

(参考) 昭和24年3月の旧制富山高校閉校をめぐって

- 2月：青冥寮でさよならコンパ。経費は700円（醤油17円、ウィスキー159円、こんにゃく96円、卵75円、牛肉260円、ねぎ60円 など）
- 2月15日：最後の卒業式、午後から解散式（門標を取り外す）
 - 旧制高校終焉のショックから、化学教授の桑田秋水は「高校の門標を下ろすとともに自決すべく家を出て」未遂に終わった
 - 数学の松倉博一は「旧制高校と運命をともにする。富高に殉ずる」と、教育職をやめることを考えた（『あゝ若き日の』724頁）
- 本館・控所・雨天体操場等 …… 高岡日本大学高校（1962年設立、現高岡向陵高校）の校舎として移築
- 有備堂（剣道場） …… 立山町五百石の龍光寺本堂として移築

検査場	文理学部(富山市蓮町22)	
受験番号	21 番	
昭和29年度 富山大学受験証票		
検査日割及び時間表		
月日(曜)	時 間	検査の別
3月23日 (火)	午前9.00～	身体検査 (レントゲン) 第一次検査
3月24日 (水)	午前9.00～同10.30 (90分間)	数 学
	午前11.00～午後0.30 (90分間)	外 国 語
	午後1.30～ 同3.30(120分間) —文科系 同2.30(60分間) —理科系	社 会
3月25日 (木)	午前9.00～ 同10.00(60分間) —文科系 同11.00(120分間) —理科系	理 科
	午後0.00～1.30(90分間)	国 語
	午後2.30～	身体検査 (レントゲン) 第2次検査
3月26日 (金)	午前9.00～	身体検査 (一般検診)

- 検査当日は検査開始30分前までに検査場に出頭すること。
- 薬学部志願者の身体検査は検査場の区分にかかわらず薬学部第1検査場(薬学部)において実施する。
- 薬学部第2検査場(奥田中学校)で受験する者は上履を携行すること。

No.

入学許可書

(学部) (学科)

(氏

名)

文理学部

文学科

頭書の学部学科に入学を許可する

昭和二十九年四月七日

富山大学長 石原寅次郎



昭和二十九年年度 入學に關する注意 富 山 大 学

一、四月十四日(水)午後四時三十分までに在学誓書、進学適性検査受検票(写真貼付のまま)学生
の身上に關する調べ二部寫眞一葉(学生証貼付用、手札型半身脱帽)をまとめて学生部補導課(富
山市奥田五)に提出し左記の入学料その他の納付金を事務局会計課(富山市奥田五)納入され
たい。

但し右の手續を郵便で行うときは必ず書留とし同日までに学生部補導課宛に必着するよう発送さ
れたい。

納 付 金	
入 学 料	金 四 百 円 也
授 業 料	金 三 千 円 也 (年額六千円の二分の一、四月から九月までの第一期分)
保 健 費	金 二 百 円 也
計	金 三 千 六 百 円 也

二、都合によつて本学への入学を取消すものは至急そのことを学生部補導課に申出られたい。

三、四月十六日(金)文理学部(富山市蓮町)の講堂において入学式を行うから昼食持参の上九時三
十分まで登校されたい。

四、次の場合は入学許可を取消す。

- 1、指定の期日までに一項の入学手續をなさないとき
- 2、何等の届出もなく入学式に缺席したとき

五、入寮を希望するものは四月十二日(月)正午必着で返信用電報料郵便切手七〇円を添え受信先を
明かにし学生部厚生課(富山市奥田五)へ申込まれたい。

寮の所在地は次のとおりである。

(学 部 名)	(寮 名)	(所 在 地)
文 理 学 部	青 冥 寮	富山市蓮町(文理学部構内)
経 済 学 部	〃	〃
教 育 学 部	思 明 寮	富山市五福(教育学部構内)
教 育 学 部	紫苑寮(女子寮)	〃
薬 学 部	蓮 久 朵 寮	富山市海岸通
工 学 部	仰 敬 寮	高岡市古定塚(工学部構内)

入寮申込をしても寮定員の関係上希望にそえない場合があるから了知されたい。

六、入学式当日文理学部において本学バッジ、学生証等を交付する。

(4) 「呉越同舟」 ーキャンパスをめぐる諸問題ー

○キャンパスの問題

- ・ 師範学校 …… 空襲で焼失
 - ・ 男子部：高岡工専・富山中学校（現富山高校）・神通中学校（現富山中部高校）の学舎を借り、9月に授業再開
 - ：歩兵第35連隊跡地（**五福**）の使用を軍政部（富山電気ビル内）に要望し、翌21年6月に開校式

旧兵舎・門衛所の部材？ →



○キャンパスの問題

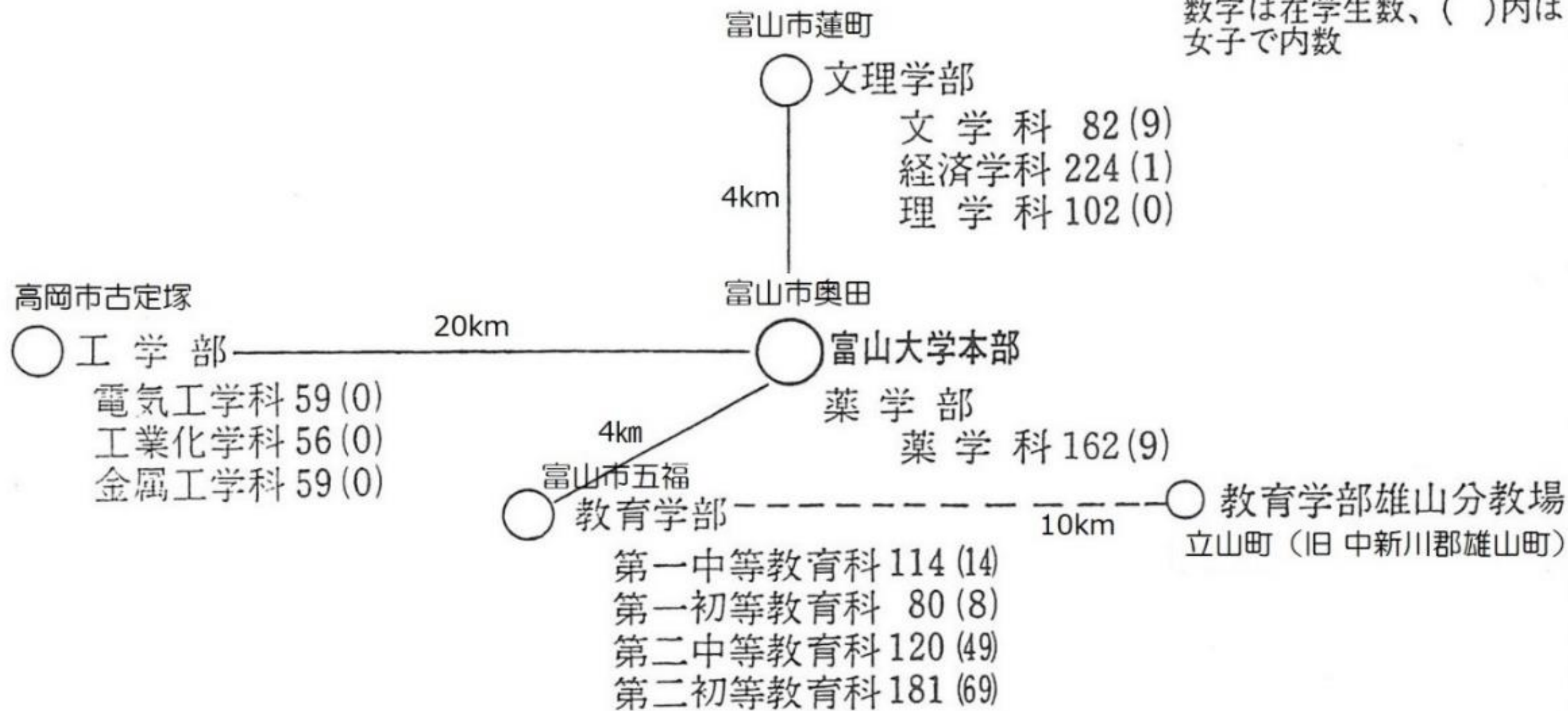
- ・ 師範学校

- ・ 女子部：勤労働員先（不二越）の寮を間借り。高岡へ移転する案が浮上したため、富山市は男子部跡に校舎を急遽建設：昭和22年、旧富山商業学校の敷地跡に移転（**五艘**）（現在の附属小学校）

- ・ 薬学専門学校 …… 空襲で焼失。富山高校に仮住まいしたのち、**奥田**へ復帰（昭和22年）

富山大学の学部学科配置 (昭和25年8月)

数字は在学生数、()内は女子で内数



(注) 昭和25年8月1日の時点で、1、2回生合わせて1,239人(うち女子159人)が在学。

○ふたたび、キャンパスの問題

- ・アメリカ軍政部のジョンソン氏、キャンパス集中を勧告（昭和23年）

↓

- ・富山高校 → 富山大学文理学部に転換（蓮町）
 - ・文学・理学・経済の3科
 - ・全学部の学生が1年半教養教育を受ける
 - ・昭和37(1962)年：五福へ移転

※蓮町公園／馬場記念公園

○ふたたび、キャンパスの問題

- **経済学部**の設置をめぐって
 - 高岡市派 …… 高岡高商の伝統、交通の要衝、
すでに工学部があり商工ともに発展する
 - 富山市派 …… すでに経済学科がある、富山市は県都、
旧練兵場跡の空き地がある
- ↓
- 県議会で高岡設置が決まったが、文部省が難色
- ↓
- 富山出身の国会議員団に白紙委任、**富山市**設置が決定

○ふたたび、キャンパスの問題

- ・ 経済学部の設置

- ・ 昭和28(1953)年：文理学部から独立（**蓮町**）
- ・ 昭和32(1957)年：**五福**へ移転（5年後、文理学部も五福へ）
- ・ 昭和34(1959)年：富山大学経営短期大学部
（昭和61年夜間主コースに改組）

○ふたたび、キャンパスの問題

- ・ 富山薬学専門学校：薬学部に転換（奥田）
 - ：昭和39(1964)年、五福へ移転
 - ：昭和50(1975)年、杉谷の医薬大へ
- ・ 高岡工業専門学校：工学部に転換（高岡）
 - ：昭和60(1985)年、五福へ移転
 - （跡地は現高岡高校）

※昭和60年の段階で、教育・人文・経済・理・工学部が五福に集中

(5) その後の富山大学

○昭和42(1967)年：教養部の設置

- ・文理学部は、専門教育を担当する学部へ
- ・昭和52(1977)年：人文学部と理学部に分離
- ・平成 5(1993)年：教養部廃止

○富山医科薬科大学（杉谷）

- ・昭和50(1975)年10月：1県1医科大学設置の方針のもと、開学
- ・薬学部……富山大学から分離、医薬大に組み込まれる

○高岡短期大学（高岡）

- ・昭和61(1986)年4月：国立短大として開学
- ・工学部の五福移転にともない、高岡市の希望をうけて設置された高等教育機関（現在の芸術文化学部のルーツ）

○平成17(2005)年10月

- ・ 県内の3つの国立大学（富山大学・富山医科薬科大学・高岡短期大学）が統合
- ・ キャンパスは、**五福・杉谷・高岡**の3か所

○平成30(2018)年4月1日

- ・ 都市デザイン学部の設置（**五福**）
- ・ 教養教育院の設置 …… **教養教育を五福に一元化**

(6) おわりに

○戦後のまとめ …… キャンパスの問題がつきまとう

- ・ GHQ : キャンパスの一元化を求める
- ・ 高岡市に経済学部を作る動き → 高岡に工学部
- ・ 工学部の五福移転 → 高岡短期大学
- ・ 3大学の統合 → 教養教育の一元化により、3キャンパス間に
シャトルバス

<参考文献>

- ①『富山大学十五年史』 富山大学、1964年。
- ②富山大学年史編纂委員会編『富山大学五十年史』 上・下巻、富山大学、2002年。
- ③『復刻版 富山高等学校十年史』 旧制富山高等学校富山同窓会、2009年。
- ④毎日新聞富山支局編『あゝ若き日の－旧制富山高校物語－』 巧玄出版、1978年。
- ⑤『富山大学経済学部五十年史』 富山大学経済学部・越嶺会、1978年。
- ⑥『高岡高商同窓会誌』 第12号、1935年5月。
- ⑦『富山県史』 史料編Ⅷ（現代）、1980年。
- ⑧『富山市史』 通史・下巻、1987年。
- ⑨DVD『富山大学ヒストリア』 富山テレビ放送制作、2015年。
（富山大学公式チャンネル ： <https://www.youtube.com/user/tomidaimovie> ）
- ⑩天野郁夫『新制大学の誕生－大衆高等教育への道－』 上・下巻、名古屋大学出版会、2016年。